◆引揚70周年記念国内ツアー◆
舞鶴・博多・佐世保をめぐる旅

戊亥芳秀（会員）

引揚70周年を記念する国際善隣協会の行事の一環として、２０１６年６月５日から８日にかけて、舞鶴・博多・佐世保の引揚三港を回る３泊４日の旅行を実施しました。出発日の５日は奇しくも関東甲信越地方の梅雨入りとなり、煙雨の中を新幹線で東京駅から新神戸に向かいました。新横浜と名古屋での合流組を加えて総勢15人、予定通り最初の訪問地神戸三宮を目指しました。新神戸駅から地下鉄で三宮まで１駅、東急ＲＥＩホテルにて関西地区の会員５名と３時間近くにわたり会食し旧交を温めることができました。（写真①）

写真①

生憎、当初参加予定の元理事長の石原さんは健康上の理由で欠席されましたが、各自自己紹介を行い、和気あいあいの中で歓談に時を過ごしました。特に、関西地区のメンバーのお話は面白くて、ユニークなエピソードには思わず耳をそばだてたりお腹を抱えて笑ったりとあっという間の３時間でした。またの再会を誓って名残を惜しみつつ、私たち一行は隣接する旧神戸本社ビル（今はミント神戸）から高速バスで一路舞鶴に向かいました。約2時間の快適なドライブを楽しみ、午後５時に東舞鶴に到着しましたが、曇り空の天候が一変し何と青空が広がりはじめ、周辺の美しい緑と青い海を一層鮮やかに際立たせ、正に一幅の絵のような景色を見せてくれました。４台のタクシーに分乗してまずはホテルにチェックイン。身を軽くしてから徒歩で５分の割烹料亭「松きち」にて夕食。流石に今回お世話になった舞鶴市広報課の担当者のおすすめの店だけあって、雰囲気・料理とも申し分なく、みなさんお酒も食事も大いに進みました。何名かの方は、２個で３０００円もする地元名産のトリガイを水槽から取り出してもらい舌鼓を打っていました。この分は自腹で払われたのですが、私もお裾分けに預かりました（笑）。（写真②）

写真②

翌朝タクシーで舞鶴引揚記念館のある記念公園へ。前館長だった語り部さんから丁寧な説明を受け、１０００点を超える展示物、生々しい写真、パネルの説明などに全員目を凝らしていました。当館の収蔵品のうち５７０点が、「シベリア抑留等日本人の本国への引き揚げの記録」として、２０１５年にユネスコ記憶遺産登録となり、流石に内容は充実していて施設も立派でした。圧巻は、セミナールーム入り口前の床に貼られた巨大なシベリア地図のフィルムで、その上に立って説明が受けられ、収容地ごとに色分けされた円形が収容人数を示す印刷もされていて、とても分かりやすかったことです。66万４５３１人の引揚者を受け入れました。

（写真③）

写真③

たっぷり見学した後、舞鶴湾を一望できる展望広場まで歩き、展望台から鏡のように穏やかな湾に視線を送り、全員暫し沈思黙考して往時を偲んでいました。（写真④）

写真④

再びタクシーで展望台の眼下にある「平引揚桟橋」へ移動。ここは引揚者が帰国の第一歩を踏みしめた感動の舞台となった桟橋ですが、雪の重みで壊れたのを１９９４年に復元したとのことです。（写真⑤）

写真⑤

ここで今回最大のイベント（？）を決行。用意しておいた二葉百合子の「岸壁の母」の歌詞のコピーを全員に渡し、海に向かってセリフ入りで３番までを大合唱したのです。最初ためらっていた女性陣も乗ってきて、最後には大声に変わっていました。歌い終わった爽快感は何とも言えないもので、きっとみなさんの良き思い出となったことでしょう。微笑して私たちを待つ運転手さんに迎えられてタクシーで有名な赤レンガ博物館へ、ゆっくりと見学後、午後３時発高速バスで、宿泊地のホテルのある伊丹空港前へ。チェックイン後近所の焼き肉店で夕食。大阪流の焼き肉は少し熟成された肉を使うらしいですが、そのためかとても美味でした。翌朝３人の方は他の人たちより30分早い便で博多空港へ立ち、残り12名は７時35分発で博多空港に８時50分に到着。無事合流して地下鉄で博多駅まで行き、そこからタクシーで博多港の引揚記念碑と福岡市民福祉プラザの「引揚港博多」常設展示場を回りました。ここは約１３９万人の引揚者を受け入れました。（写真⑥）

写真⑥

記念碑は真新しく、その前で記念撮影をした際、足元に置いてあった会員のデジカメを、撮影に夢中になっていたタクシーの運転手さんがうっかり踏みつけて壊してしまうというハプニングが発生しましたが、保険に加入していたのでまずはよかったというところ。福岡市は人口が約１５５万人の大都市でやるべき事業が多いからか、引揚に関してはさして力が入っていないと思えました。常設会場もパネルの展示中心で、市をあげて力を入れている舞鶴の印象が強い私たちには物足りないというのが実感でした。新宿にも劣らない立派な天神バスターミナル４階から10時50分発の高速バスでハウステンボスを目指して出発。

約２時間、ピーカンの青空の下に繰り広げられる緑の光景を車窓から楽しみ、ハウステンボスからは、最後の目的地「浦頭引揚記念資料館」を目指して移動。今回の旅の趣旨から、ハウ

ステンボス観光は一切無く、一部の方がトイレを使用したのみでした（笑）。浦頭平和記念公園は７ｍの白い平和の像がそびえ立ち、資料館はこの公園内にある面積１６５㎡の平屋建てで、約40枚のパネル、引揚経路模型、引揚当時の着衣、日記、紙幣、リュックサック、引揚証明書、検疫所ＤＤＴ消毒器具などが展示されていました。引揚者は埠頭から引揚援護局本所がある旧針尾海兵団（現在のハウステンボスの場所）まで約７㎞を徒歩移動して諸手続きの後、国鉄南風崎駅（現在は無人駅）から引揚列車でそれぞれの郷里へ帰って行ったという話には胸の詰まる思いでした。約１３９万人の引揚者を受け入れました。美しい大村湾を背景に一同記念撮影。（写真⑦）

写真⑦

資料館から約５００ｍ下ると引揚者が祖国日本の第一歩を踏んだ引揚場所があるというので、全員浜に向かって「引揚第一歩の地の記念碑」の立つ場所まで歩き、そこで暫し感慨に耽りました。（写真⑧）

写真⑧

タクシーでハウステンボスに戻る途中、あの有名な真珠湾攻撃の作戦開始を告げる「ニイタカヤマノボレ」の電報が発信された３本の鉄塔が見えました。無料送迎バスで佐世保市内のホテルまで移動しチェックイン。近くの料亭「ささいずみ」にて夕食。ここはホテルのコンシェルジュおすすめの店で、近海魚中心の料理が次々に出てきて、旅話に花が咲き、お酒も進んで、旅の最後の夜は大いに盛り上がりました。（写真⑨）

写真⑨

翌朝近くの戸尾市場を散策し、入り口近くにあるてんぷらやでは奥の防空壕を今も使用しているというので、保管庫や大きな粉を練る機械３台が設置されているのを見学したり、九州弁で対応してくれる明るく陽気な地元のおばさんを冷やかしたりの楽しい一時を過ごしました。その後タクシーで市役所まで移動し、市の幹部たちと30分ぐらい会合を持ち佐世保市の概要や熱心な活動報告に耳を傾けました。港に面した五番街で話題の佐世保バーガーを食し、ジャンボタクシーと小型タクシーの２台を予約して、佐世保駅みなと口から長崎空港へ向かい、予定通り全員無事帰路につきました。羽田空港で解団式を行い、会長から無事つつがなく旅を終えられてよかったとのコメントをいただき解散となりました。梅雨にもかかわらず旅行中雨のない好天に恵まれた旅でした。（写真⑩）

写真⑩